

大阪代協だより

Web版



INDEPENDENT INSURANCE
AGENTS OF OSAKA INC.

■発行者

一般社団法人 大阪損害保険代理業協会
会長 山中尚
大阪市北区梅田1丁目2番2-1400
大阪駅前第二ビル14-1-2
TEL06-6341-6085

■大阪代協ホームページ

<https://www.osakadaikyo.or.jp/>



われわれは、次の募集規範を遵守し、消費者の利益に貢献します。

- 倫理規範** ①社会性・公共性の自覚 ②自己研鑽 ③信義・誠実性 ④信用の維持
行動規範 ①重要事項の説明 ②最善アドバイス
③アフターサービス・アフターフォロー ④顧客情報の守秘 ⑤法令の遵守

理事会だより

☆11月20日に理事会が開催されました☆

●損害保険トータルプランナー受講者の募集開始！ (損害保険大学課程コンサルティングコース)

- ・12月1日から2020年2月14日までが募集期間です。
- ・損害保険資格の最高峰であるこの資格の取得者を1人でも多く増やすことが、業界の発展に繋がります。
- ・各支部に目標があります。必達をお願いします。

●来年度委員会体制が変更されます

- ・年金基金委員会は今年度を持って終了します。
- ・国民年金基金は提携事業の一つに位置付けます。
- ・60周年特別委員会が期間限定で発足します。
(2021年度に大阪代協60周年を迎えます)

●新たに提携事業が追加されます

- ・いずれも会員の皆様にインセンティブがあります。
 - ・セキスイハイム(住宅・土地)
 - ・セリオ(電動カート、電動車いす、電動自転車)
- ※追って支部会にて情報提供が行われます。

(記事：吹原事務局長)



HPが新しくなりました。
・支部会・お知らせ・活動報告・セミナー案内・などなど
HPでチェックしてね！

12月の予定

11日(水)	無料法律相談	(大阪代協 会議室)
14日(土)	合同ブロック協議会	(大阪代協 会議室)
16日(月)	地震保険セミナー兵庫	(兵庫県民会館)
18日(水)	理事会	(大阪代協 会議室)
27日(金)	事務局御用納め	(大阪代協 会議室)

2019チャレンジ50

11月度ご入会の会員の皆様です。
どうぞ宜しくお願いします。

所属支部	代理店名(敬称略)	代申会社
京阪西	TBSワークス	AD
阿倍野	テイクワン	三井住友
阿倍野	リンクス	三井住友

☆11月は3店の仲間が増えました\(^o^)/
☆正会員の入会は年度累計で27店、目標達成まで23店です。皆の力を合わせて、業界に代協の理解を広げて行きましょう。

☆☆ 大阪代協のセミナー情報 ☆☆

みんなで勉強し、研鑽を積みましょう！！

◆1月28日(火)15:00～ @大阪代協会議室(予定)

「サイバーリスク対応セミナー」

講師：独立行政法人情報処理推進機構(IPA)

セキュリティセンター 鈴木 春洋 氏

サイバーリスクの実態と今すぐにできる対策について
解説・ご指導をいただきます。(定員50名)

問合せ：事務局

☆☆ 体制整備情報 ☆☆

「森の賢者 ふうたのワンポイントレッスン Part4」
Vol.8 が配信されました。今月は「USBの管理」がテーマです。

是非事務所内の皆様でご一読下さい。

～『明るく楽しく元気に、仕事は本気で誠実に』～

第9回日本代協コンベンションが開催されました



日本代協は11月1日（金）、全国の会員代理店や損保業界関係者が一堂に会する「第9回日本代協コンベンション」を東京・台場のグランドニッコー東京台場で開催しました。コンベンションには会員代理店など約400名が参集しました。



冒頭、日本代協の金子智明会長（写真左）が挨拶。顧客視点の重要性を改めて示した金子会長は「変化に適応する上で最も重要な点は、言うまでもなくお客様の視点であり、お客様本位の業務運営だ。歴史は繰り返すが時代は繰り返さないという言葉があるが、これから先、どんな変化が起こったとしても、お客様本位の時代が訪れることはない」と強調しました。さらに「たとえ地味であっても、お客様の役に立ちたいと願い、お客様の目線に立って考え、行動する。そのためにそこで働く人たちがいきいきと働ける環境を作る。このようなお客様本位と社員満足を一体のものとして位置づけ、その軸をぶらさずに経営を行うことが未来への唯一の近道であること私は確信している」と述べ、安心・安全を求める顧客の心のよりどころになることが地域で生きる保険代理店の価値だとの考えを示しました。全国の代協会員代理店に向けては「私のモットーは『明るく楽しく元気に、仕事は本気で誠実に』だ。全国の会員代理店との対話を大事にしながらともに知恵を絞り、汗を流し、変化にチャレンジし、若い人たちがここで働きたい、と思ってもらえるようないきいきとした業界を作っていきたい」と業界発展への協力を呼びかけました。

次いで、来賓として金融庁監督局保険課長の横尾光輔氏（写真右）と損保協会専務理事の岩崎賢二氏が挨拶。金融庁が掲げる顧客本位の業務運営の実現に関して横尾氏は「金融庁はここ数年、顧客本位の業務運営を金融



令和 元年12月号

発行：2019 年(令和 元年) 12月 5日

行政の大きなテーマに掲げている。保険・保険代理店分野においては顧客のニーズや利益に真に適うために、保険商品を提供することを通じて、不測の事態に備えるための補償機能を発揮すること、そして経済成長や国民生活の安定に貢献することが期待されている」とコメント。また昨今、問題視された法人向け保険商品や高齢者向けの不適切販売などについても言及した横尾氏は「最近では、特定の生命保険などにおいて顧客にとって不利益になりかねない、あるいは保険に対する信頼を損ないかねない契約が多数発生しているという報道もある。顧客本位の業務運営の基本の一つとして、保険募集においては顧客ニーズに合致した商品提供が行われることが重要であることは言うまでもない」と指摘しました。そのうえで代協会員代理店に向けては「この場にいる代理店の皆さまは主に、損害保険を扱う代理店と認識しており、皆さまが提供する保険商品やお客様への営業手法がさきほどのような報道にあるものとは大きく異なることは承知しているが、こうした事例を他山の石として適正な保険募集を行うことを期待している」と求めました。



損保協会の岩崎専務理事（写真右）は、自然災害が相次いで発生するなかにおいて、地域のリスクマネージャーとしての役割を保険代理店に求めたうえで、「近年、さまざまな自然災害が発生しており、備えとしての保険に対する期待はますます高まっている。損保協会としては、すべての人々が安心かつ安全な暮らしを行えるように、経済的な備えとしての保険加入の重要性を広く周知するとともに、地域特性に応じた防災・減災・事故防止に資する取り組みを地道に進めていくことが重要だと考えている。お客様が自然災害リスクをはじめとした身の回りのリスクを正しく理解し、備えを充実させるためには、日頃から地域密着の取り組みを続けている保険代理店の皆さまの協力が不可欠だ。今後とも、地域のリスクマネージャーとして保険提案とともに地域における自然災害に対する防災・減災に貢献いただき、お客様の不安に寄り添い、取り除きあるいは軽減する取り組みをお願いしたい」と述べました。



記念式典では、長年に渡り代協活動に取り組んできた会員代理店 9 氏の功労者表彰が行われ、大阪代協からは奥忠道氏（写真左の右側）が表彰されました。受賞者を代表して挨拶した北海道代協の高梨重勝氏は「代理店を始めて 42 年、代協組織に入ってから 33 年になる。日本代協が今後、どのような方向に進んでいくのかを見届けたいという思いがある。私は保険業界にこれまで、大きな波が 2 つあったと思っている。一つは保険の自由化、保険ビッグバンだ。そしてもう一つが、高齢化の問題や AI の進展といった環境変化のなかにある今だと思う。私が危惧しているのは代理店の高齢化だ。代協が代理店の事業継

承対応に一層、関わってもらいたい。代理店がどうあるべきかを代協で講じ、会員代理店に発信していただきたい。」と求めました。

続いて行われた代協会員懇談会では、事前質問をふまえた会員代理店からの意見や要望に代協役員が回答するなど、忌憚のないやり取りが行われました。会員代理店からは、代理店賠償の普及促進を求める声や会員代理店を対象にした代協による一層の品質向上支援を求める声などがあがりました。

また、日本代協事務局からの情報提供として、年内にかけて実施中の関東財務局による代理店ヒアリングは対象が 3 社以上の乗合で人員 10 名以上 300 名未満の兼業代理店であることや、ヒアリングの結果が来年 2 月ころに公表される見込みであることなどの説明がありました。

その後に行われた情報交換会には保険各社の社長をはじめ業界関係者 500 名超が参加するなど、会場は活況を呈しました。



（記事：新日本保険新聞社）

～自らの世界が大きく広がりました～

日本代協コンベンションに参加して



11月1日、2日の日程で、東京にて開催された第9回日本代協コンベンションに参加させて頂きました。「牛にひかれて善光寺参り」の例えではありませんが、当初は消化試合のつもりで参加しましたが、一変、今は本当に良い経験をさせて頂いたと考えています。

初日は、お台場のグランドニッコー東京台場に、日本全国から代協会員が一堂に会して始まりました。日本代協金子会長の開会ご挨拶に始まり、金融庁監督局・横尾保険課長、損保協会・岩崎専務理事よりご祝辞を頂戴し、募集規範朗読や功労者表彰が行われました。



大阪代協からは、奥相談役が永年のご功績により功労者として表彰を受けられました。誠におめでとうございます。

また、初日の基調講演では、野村修也先生（中央大学法科大学院教授 弁護士）を講師として「人工知能（AI）は私達の暮らしをどう変えるか」をテーマにご講演頂きました。内容については割愛させて頂きますが、将来を見据えた興味深いお話でした。

続く情報交換会（自然災害で被災された方々に配慮し懇親会ではなく）は立食形式で行われました。衆議院議員石原伸晃氏、元財務大臣藤井裕久氏にご挨拶を頂き、国内損害保険会社社長全員が登壇され紹介されました。会は和やかな雰囲気



気の中で進み、各地域の代理店の方々と楽しく情報交換ができました。

2日目は4名の講師を招き〇〇ゼミと銘打ち、それぞれ分科会に分かれ、ご講演を拝聴しました。私はAIG社で最も品質が高い代理店であり、北海道代協会員のリプラス株式会社 櫻井英裕社長 古川純子氏が講師を務められた櫻井ゼミに参加しました。「お客様にとっても従業員にとってもプラスになる企業作り」というテーマで約2時間お話を拝聴しました。Live（生活、人生）にプラスになるという思いを込めて社名をリプラスと命名されたと言うお話から始まり、経営理念の大切さ、社内文化の作り方、態勢整備、PDCA、業務管理等ハイレベルな代理店経営手法をご教授頂き、目から鱗どころではなく「こんなに進んだ代理店があるんだ！」という驚きを禁じ得ませんでした。

この度、はからずも日本代協コンベンションに参加することができ、自らの世界が大きく広がりました。保険本業に対しても大いに刺激をいただけ、本当に良かったと思います。「保険代理業を営む者としては、一度は参加すべきもの」と言うのが、率直な感想です。

最後になりましたが、2日間一緒に参加を頂いた皆様には大変お世話になり、お礼申し上げます。本当に良い経験をさせて頂きました。ありがとうございました。

（記事：京阪西支部 和田記者）

～191名の啓発員を送り出すことができました～

大阪府建築防災啓発員認定講習会実施報告

CSR委員会では、今年度の新たなチャレンジとして、大阪府と事業連携協定を結び、大阪代協会員に大阪府の建築防災啓発員資格取得を推進する活動を開始いたしました。

11月7日をもって、2019年度の3回目の講習会が終了し、合計191名の啓発員を送り出すことができました。



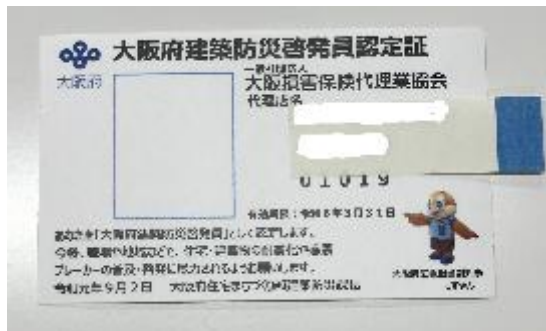
この取組は、大阪代協会員が大阪府職員の代替として活動するもので、地震保険の普及促進を行いつつ、お客様に対して、耐震性の弱い建物の耐震化や、住宅密集地域での電気火災の発生を防止する感震ブレーカー取り付けを啓発します。防災・減災に貢献し、地域行政の一翼を担うことで損害保険代理店の地位および職業魅力を向上させよう、という目的を持って始めました。

結果として多くの会員の皆様にご賛同をいただき、初年度として成功させることができたことは、会員の皆様のご理解とご協力の結果であり、この場をお借りして深く感謝を申し上げます。

また、CSR委員の皆も初めてのことで手探り状態の中、一から作り上げてくれたこと、大阪府の建築防災課の皆様のご協力にも心から感謝を申し上げます。

CSR委員会としては、次年度以降も引き続き大阪府建築防災啓発員の輩出に注力をして参ります。取組み主旨のさらなる浸透に努め、啓発員講習会参加者の募集を継続して参りますのでどうぞよろしくお願い致します。

(記事：CSR委員会 前田委員長)



～普段は体験できない自動車事故の実態を体感～

事業活性化委員会 自動車事故の実証実験を見学体験しました

11月7日(木)事業活性化委員会が主催し、提携事業先である㈱TAUの大阪ヤード(泉大津市)にて廃車後の車両を使用した、自動車事故の実証実験を見学体験しました。

最初は、巻き込み事故の再現です。ここでは障害物にわざと車の側面を擦らせて、傷の付き方をみるものでした。参加者の中から1名実際に運転してもらい行いました。後部座席に同乗していた方からは「さほど衝撃がない」という感想があり、それはドア自体がへこむことにより衝撃を吸収して、とのことでした。

2つ目に、自転車を置いて速度10キロほどで車が衝突





する事故を再現しました。ここでははねられた自転車の動きや、その際にできる自動車側、自転車側の損傷様子を見させていただきました。

3つ目に、2台の車を使い、停止車両への衝突を再現しました。まず最初にクリープ現象でのスピードで行い、これは(株)TAUの方が運転して、助手席と後部座席に参加者が乗り体験しました。これを体験していただくと、皆様のご契約者様から事故報告を受けた際に、「ちょっと当たっただけ」という言葉をお聞きになることがあると思いますが、その「ちょっと」は、思ってる以上に被害が大きいと理解できると思います。

次に、これは危険なので同乗はできませんが、時速20キロでの追突を再現しました。ぶつけられる方の車のホイールにテープで印をつけて、どれくらい動くのかというものをを見せていただきました。これはかなりの衝撃と接触時のタイヤのすれる音が印象的で、何度か行ったこともあります。ぶつけた方の車のエンジンがかからなくなったり、一方のトランク部分は、ボールを使わないと開かなくなったりという状況になりました。そのトランクを無理やり開け中の状態がどうなっているのかを見せていただき、その損傷具合やお互いの車にできた傷を元に、アジャスターがどう判断するのかというポイントも教えていただきました。

最後に車を潰すというものを体験させていただきました。これは、ご用意いただいたバットや鉄パイプやドライバーなどを使い、盗難いたずらの検証をするというものを目的としました。窓ガラスは意外に強く、一点に衝撃を加えないと割れません。つまり、バットや鉄パイプではよほどでないと割れません。しかし市販されている水没時などに使用する脱出用ハンマーを使うと、ほとんど力を入れず窓が粉碎することを体験できました。



他に車のボディに傷をつけるにはどれくらい力が必要なのかなど、参加者各々が色々な方法で体験していただきました。

参加した皆様からは「普段は体験できない自動車事故の実態を体感することができて、とても良い体験ができた」と大変好評でした。

今回ご協力いただいた(株)TAUは、事故車の買取業務において、大阪代協と提携していただいております。お客様の事故車をご紹介いただければ、お客様には、わずかでも利益を還元することができます。お客様に提供できる、一つの選択肢として会員の皆様に周知していただきたく、今回のような研修を行いました。提携事業に関しましては、ホームページにてご案内しておりますので、一度見ていただければと思います。

(記事：事業活性化委員 中村記者)



～『終活セミナー エンディングノートの活用方法』～

南大阪支部 終活セミナーを開催しました

11月22日(金)、南大阪支部では、仕事に役立つ代協セミナー『終活セミナー エンディングノートの活用方法』を、一般社団法人「親なきあと」相談室 関西ネットワーク 代表理事 藤井 奈緒氏を講師に迎え開催いたしました。

「終活」とは、死と向き合い、最後まで自分らしい人生を送るための準備のことです。



藤井先生は以前に葬儀社にお務めの経歴の持ち主であり、しっかりと伝えるべきことをつたえないまま旅立たれた後の、遺族の揉めている現場を何度も目にしたそうです。そこでいざという時にそうならないよう、自分の死後の大事な伝言ノートであるエンディングノートの書き方のアドバイスをしているのだそうです。

一口にエンディングノートと言っても様々なフォーマットで出版されており、どれがお薦めなのかよく聞かれるそうですが、ベストなものはないと答えられるそうです。人それぞれに書き遺しておきたいことは違うので、本人が良いと思う

もので良いのだとか。そんなエンディングノートですが、実は書けない人が殆どなのだそうです。それは何故か。要するに【飽きてしまう】からなのだそうです。書いていると今死ぬみたいで気分が暗くなるとか、用意したノートの、自分が書きたい項目の行数が足りなくて嫌になったとか、あーだこーだと飽きている自分を正当化する理由をつけて辞めてしまうのだと・・・

自分なら飽きてしまうであろうと自信が無くなってきた私たちの気持ちを引き締める為、改めてエンディングノートに書いておくことの必要性を[生前][死後]《緊急》《急がない》にカテゴリーした分かりやすい解説がありました(例えば、[生前]+《緊急》は、病気で急に倒れたりして意思の疎通が困難になった時の自分の介護はどうして欲しいか、など)。皆、自分自身の時のこと、両親の時のことなどそれぞれイメージし、自然とうなずきが多くなり、真剣に聞き入っていました。

続いて、藤井先生の作成したご自身のエンディングノートを実例として示しながら講義は進みます。一冊の本ではなく市販のポケットタイプのバインダーに、暗証番号、保険証券、診察券、処方箋などのコピー(書き間違い防止と、手間を省く為、コピーで充分だそうです)や、他のエンディングノートの、自分が書きたいページのコピーなどを入れて管理しておられました。どうせ冊子の物は全ページを埋めることはありませんので、飽きないように手間をかけないことがコツなのだそうです。

楽にラフに自分の気持ちや希望を書き、でも葬式、相続などの決めるべきことは我々保険代理店を含めたそれぞれの専門家にきちんと相談しておく。人生の幕引きに際して遺された人たちを困らせることの無いように整理しておくことの大切さを学べたよい機会になりました。

セミナーの後は支部会恒例お待ちかねの懇親会でした。一日の締めには中華料理とアルコールをしっかりと堪能することで生きていることを実感し、充実した時間を過ごしました。

(記事：南大阪支部 田中記者)



《体制整備の豆知識Part 4》

2019. 11. 22

ふうたのワンポイントレッスン Vol. 8

USBの管

＜会員の皆様には本文を送付済みです。著作権の関係でホームページ掲載用は内容を割愛しています＞

作成：日本創倫株式会社 専務取締役(SEO)オフィサー事業部長 風間利也

配信：日本代協 事務局